

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	永浦 拓
2. 審査委員	主査：(兵庫教育大学 教授) 富 永 良 喜 副主査：(兵庫教育大学 教授) 市 井 雅 哉 委員：(岡山大学 教授) 安 藤 美華代 委員：(兵庫教育大学 教授) 西 岡 伸 紀 委員：(兵庫教育大学 教授) 遊 間 義 一
3. 論文題目	ストレスマネジメント理論に基づく「心の健康教育プログラム」に関する研究
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 永浦 拓 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成27年2月2日(月) 11:00～12:30 場所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス講義室3</p> <p>(1) 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、以下に示す8章から構成されている。</p> <p>第1章 問題の所在と本研究の目的 第2章 学校教育における心の健康の促進のために 第3章 学校教育で活用するための子どものストレス反応尺度の作成(研究Ⅰ) 第4章 小中学生を対象としたいじめによる心身反応調査票の作成(研究Ⅱ) 第5章 公立中学校における心の健康教育プログラムの実践(研究Ⅲ) 第6章 個別の支援を要する児童生徒への教師のかかわりに関する研究(研究Ⅳ) 第7章 教師の「心の健康教育プログラム」実践の体験プロセス(研究Ⅴ) 第8章 総合的考察と提案</p> <p>各章ごとの論文概要は、以下に示すとおりである。</p> <p>第1章では、すべての児童生徒が心の健康の重要性を理解し、心の健康を促進すること、心の健康の問題を改善することを目的とした「心の健康教育」を学校教育の場面で推進のための取り組みについて、「心の健康のアセスメント」、「集団を対象とした心の健康教育授業」、「教師による心の健康に焦点を当てた個別のかかわり」の3点を挙げ、本論文の目的と構成が記された。</p> <p>第2章では、①心の健康のアセスメント：心理教育プログラムへの対応など、教育的に活用できる項目で構成されたストレス反応尺度、いじめ被害者・加害者双方の心身の反応やトラウマ反応を測定する尺度、の2点が必要であること、②集団を対象とした心の健康教育授業：ストレスマネジメントの理論に基づき、リラクゼーション技法のみならず、対人関係スキルや認知面へのはたらきかけも含めた心理教育プログラムの構成が必要であること、③教師による心の健康に焦点を当てた個別のかかわり：児童生徒のメンタルヘルスに焦点を当てた見立てや、臨床心理学の知見に基づいたかかわりの分類・整理が必要であることを課題として挙げた。</p> <p>第3章では、小中学生を対象とした質問紙調査を実施し、児童生徒のストレスについて、短時間で多面的に測定することを目的とした「学校教育で活用するための子どものストレス反応尺度」を作成した。因子分析の結果、5因子20項目が抽出され、十分な信頼性と妥当性が確認された。</p>

第4章では、小中学生を対象とした質問紙調査を実施し、いじめという言葉を用いることなく児童生徒のいじめ被害・加害と関連する心身反応を測定することが可能な「いじめによる心身反応調査票」を作成した。因子分析の結果、4因子22項目が抽出され、概ね良好な信頼性と妥当性が確認された。

第5章では、公立中学校を対象に5年間にわたり「心の健康教育プログラム」の実践を行った。生徒対象の質問紙調査の結果、①生徒のストレス反応の低減、②望ましいストレス対処の促進、③トラウマによる心身反応の低減、④各授業に対応した知識や意識の向上が認められた。

第6章では、教師を対象とした質問紙調査を実施し、「個別の支援を要する児童生徒への教師のかかわり尺度」を作成した。その結果、「心身不調や強いストレスへの対処を促すかかわり」、「問題行動への注意・指摘・指導に焦点化したかかわり」と、教師の生徒指導への効力感の高さとの関連があることが示唆された。

第7章では、心の健康教育プログラムの実践に携わった教師が、プログラムをどのようにとらえ、実施し、それがプログラムの効果および教師の意識やかかわりにどのように関連していくのかについて、インタビュー調査の結果をもとに検討を行った。その結果、ローテーション方式などによる授業実践が教師の授業理解および実施への効力感を高めること、教師による授業案の改善点などの検討、授業内容の日常への結び付けに関する協議を行う必要があることなどが示唆された。

第8章では、以上の結果をもとに、学校教育における「心の健康教育」の導入および推進のための提案を行った。

(2) 審査経過

審査過程は、次の3点に集約できた。

① 研究目的及び論文構成

本論文は、「心の健康のアセスメント」、「集団を対象とした心の健康教育授業」、「教師による心の健康に焦点を当てた個別のかかわり」の3領域について、これまでの先行研究を概観し、各々の問題点や課題の解決を研究の目的として設定している。これらの研究目的の設定は、本論文の目的である、学校教育における心の健康教育の推進に寄与する、妥当なものであると判断された。児童生徒のメンタルヘルスの問題に対する予防と介入は、昨今の学校教育における重要な課題のひとつであり、学校教育における心の健康教育の推進のための具体的な提言を行うという本論文の取り組みは、大変意義深いものであると高く評価された。

② 研究方法

研究Ⅰ、研究Ⅱ、研究Ⅳでは、尺度構成のために因子分析や共分散構造分析などの方法が用いられており、分析は丁寧かつ適切に行われていた。一部、適合度指標の数値に課題が残るという指摘もあったが、児童生徒の心の健康を把握するための尺度として、価値のあるものであると確認された。また、研究Ⅲでは、「心の健康教育プログラム」の効果について、複数の尺度を用い、さまざまな視点からの検討が行われており、その分析方法も妥当なものであった。さらに研究Ⅴでは、教師の心の健康教育プログラムの体験に関するインタビューデータについて、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手順に基づいて分析されていた。以上、本論文は設定された研究課題について、論理的かつ客観的に検討がなされていると評価された。

③ 独創性と発展性

本論文は、学校教育で児童生徒の心の健康やいじめのアセスメントを行う際に有用な2つの尺度の開発、ストレスマネジメントの理論に基づく心の健康教育プログラムの構成と長期的な実践およびストレスに対する効果の検討など、新たに心の健康に寄与するプログラムを構成し実践した点、学校教育への導入という実践的な部分に焦点を当て、量的・質的双方の側面から検討が行われている点などにおいて、その独創性が確認され高く評価された。今後の発展として、児童生徒の心の健康に関する知識面・意識面を再整理し、その変化に重点を置いた検討や、本論文で示された心の健康教育導入モデルに基づき、様々な学校を対象とした実践研究などが示唆された。これらの研究成果は、わが国の学校教育における児童生徒の心理的問題の予防・介入を推進していくうえで、大きく貢献するものと判断された。

(3) 審査結果

以上により、本審査委員会は 永浦 拓 の提出した学位論文が博士(学校教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。